

外為ウィークリービューⅢ 南半球編

先週までの為替相場のレビューと、今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2011/08/08

株安からくるリスク回避の動きが落ち着くかが鍵に

通貨ペア	基調		ページ数
<u>豪ドル/円</u>	➡	豪7月雇用統計に注目	2-3
		予想レンジ: 79.00 ~ 83.20 円	
<u>NZドル/円</u>	➡	NZ景況感に関心が戻るまでの辛抱か?	4-5
		予想レンジ: 64.00 ~ 66.40 円	
<u>ランド/円</u>	➡	引き続き主要国の株価動向を見ながら	6-7
		予想レンジ: 10.90 ~ 11.50 円	
<u>経済指標 カレンダー</u>	一週間の予定を一覧で表示		8-9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2011 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

AUD/JPY

豪ドル/円 8/1~5の主な推移



8/1
Monday

米オバマ大統領が声明を発表し、民主・共和両党の指導部が政府の債務上限引き上げと財政赤字削減策で合意に達した事を明らかにした。これを受けて時間外のNYダウ平均先物や日経平均株価が堅調に推移すると、豪ドル/円は86.14円をつけた(①)。しかし、米7月ISM製造業景況指数が予想を下回ると、米国の景気減速懸念からNYダウ平均が100ドル超下落。これを受けて豪ドル/円は83.78円まで下げた(②)。ただ、日経新聞電子版が「政府が円高是正へ介入準備」等と伝えた事で円売りが優勢となり、豪ドル/円は84.60円台まで反発。

8/2
Tuesday

豪準備銀行(RBA)は政策金利の4.75%据え置きを決定。一部では今回の理事会での利上げ期待が広がっていたが、声明文では「追加利上げが正当化されるか検討した」としつつも、「世界景気の不確実性から、金利据え置きが賢明」「成長とインフレ見通しを今後も注意深く判断」など、利上げに慎重な姿勢を示した事が伝えられ、早期利上げ期待が後退。これを受け、豪ドル/円は83.88円まで下げた(③)。米上院で債務上限引き上げ法案を可決したことで、米国のデフォルト懸念は後退。しかし、格付け会社による米国の格下げ懸念が依然としてくすぶる中、引けにかけてNYダウ平均が下げ幅を拡大すると、豪ドル/円は一段安となった(④)。

8/3
Wednesday

豪6月小売売上高は前月比-0.1%と予想(+0.4%)を下回り、6月貿易収支は20.52億豪ドルの黒字となり、黒字幅は予想(22.00億豪ドル)を下回った。これを受け豪ドル/円は40銭以上急落して82.42円まで下げた(⑤)。米7月ISM非製造業景況指数が予想を下回り、その後NYダウ平均が一時160ドル超下落すると、豪ドル/円は一時82.08円まで下げた(⑥)。

8/4
Thursday

政府・日銀による円売り介入を受け、豪ドル/円は急騰した。また、円売り介入は欧州市場でも続き、その後85.13円まで上昇した(⑦)。しかし、欧州債務不安を背景に欧州株が下落した事が引き金となり、NYダウ平均が引けにかけて500ドル以上の下げを記録すると、リスク回避の動きが強まり豪ドル/円は引けにかけて82.68円まで下げた(⑧)。

8/5
Friday

米7月雇用統計は失業率が9.1%(予想:9.2%)、非農業部門雇用者数は11.7万人増(予想:8.5人増)となり、予想よりも強い結果を受けて時間外のNYダウ平均先物が急騰すると、豪ドル/円は83.08円まで反発(⑨)。しかしその後、米国の格下げ懸念を背景にNYダウ平均が一時240ドル超下げると、豪ドル/円は一時3月23日以来となる81.40円まで下落した。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

AUD / JPY

上昇要因(豪ドル高・円安)

- ・日本と豪州の金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の後退
→リスクを取ることへの積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・豪州の利上げ再開観測
- ・原油などの資源価格の上昇
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(豪ドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・原油などの資源価格の下落
- ・中国の金融引き締め観測
- ・中国経済の減速懸念
- ・豪州の利下げ観測

今週の見通し

先週の豪ドル/円相場は81.40～86.14円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約2.9%の下落(豪ドル安・円高)となった。

先週、米国の景気減速懸念を背景にNYダウ平均が下落した事や、欧州債務問題の拡大を背景に欧州株が下落した事も加わると、世界的な景気減速が懸念されて豪ドル/円は売り優勢の展開が続いた。5日のRBA四半期金融報告では、2012年の豪州経済の成長率やインフレ率の見通しを引き上げた事が好感され、豪ドル/円は上昇したものの、リスク回避の動きの前では上値が抑えられた。この流れは容易には変わりにくいと見られ、今週も主要国で株安が進む場面では豪ドル/円は軟調な展開が予想される。

豪州では11日に7月雇用統計の発表が予定されており、本稿執筆時点でのエコノミスト予想では、失業率は4.9%、常勤雇用者数は1.00万人増となっている。7月19日に公表されたRBA理事会の議事録では、雇用の鈍化傾向が指摘された事に加え、8月に入っても金利先物市場ではRBAによる利下げを織り込む動きが続いている事からも、予想よりも弱い結果が伝えられる場合、豪ドル/円は売りが強まる展開が予想される。ただし、事前予想を上回ったとしても、常勤雇用者数が大幅に増加し、加えて失業率も低下するなど、予想を大きく上回る雇用状況が示されない限り、豪ドル/円の上昇は一時的となる可能性もある。(川畑)

(予想レンジ: 79.00～83.20 円)

NZD/JPY

NZドル/円 8/1~5の主な推移



8/1 Monday	米オバマ大統領が声明を発表し、民主・共和両党の指導部が政府の債務上限引き上げと財政赤字削減策で合意に達した事を明らかにした。これを受けて時間外のNYダウ平均先物や日経平均株価が堅調に推移すると、NZドル/円は2010年5月以来の高水準となる68.85円を記録(①)。しかし、米7月ISM製造業景況指数が予想を下回ると、米国の景気減速懸念からNYダウ平均が100ドル超下落。これを受けてNZドル/円は66.90円まで下げた(②)。ただ、日経新聞電子版が「政府が円高是正へ介入準備」等と伝えた事で円売りが優勢となり、NZドル/円は反発した。
8/3 Wednesday	早朝にイングリッシュNZ財務相が「NZドル高が真の懸念材料」などと発言した事を材料にNZドル売りが進み、NZドル/円は弱含みで推移。その後も日経平均株価や欧州株の下落を背景に、NZドル/円は一時66.12円まで下げた(③)。
8/4 Thursday	7時45分に発表されたNZ第2四半期失業率は6.5%となった。ただ、事前予想通りの結果となったことで市場での反応は限定的となり、NZドル/円は発表前の水準から20銭程度の上昇に留まった(④)。しかし10時過ぎ、政府・日銀による円売り介入を受けてNZドル/円は急騰。また、円売り介入は欧州市場でも続くと、その後68.06円まで上昇した(⑤)。もっとも、欧州債務不安を背景に欧州株が下落した事が引き金となり、NYダウ平均が引けにかけて500ドル超の下落となると、リスク回避の動きが強まりNZドル/円は引けにかけて上昇分を吐き出した。
8/5 Friday	米7月雇用統計は失業率が9.1%(予想:9.2%)、非農業部門雇用者数は11.7万人増(予想:8.5人増)となり、予想よりも強い結果を受けて時間外のNYダウ平均先物が急騰すると、NZドル/円は一時66.42円まで上昇した。しかしその後、米国の格下げ懸念を背景にNYダウ平均が一時240ドル超の下げを記録すると、NZドル/円は一時65.20円の安値をつけた。ただ、NYダウ平均が下げ幅を縮小すると66.44円まで反発するなど、乱高下する展開となった(⑥)。

NZD / JPY

上昇要因(NZドル高・円安)

- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることへの積極性が増す
→主要国株価の上昇
- ・NZの利上げ観測
- ・本邦及びG7の円売り介入

下落要因(NZドル安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
→主要国株価の下落
- ・NZの利上げ観測の後退
- ・中国の金融引き締め観測

今週の見通し

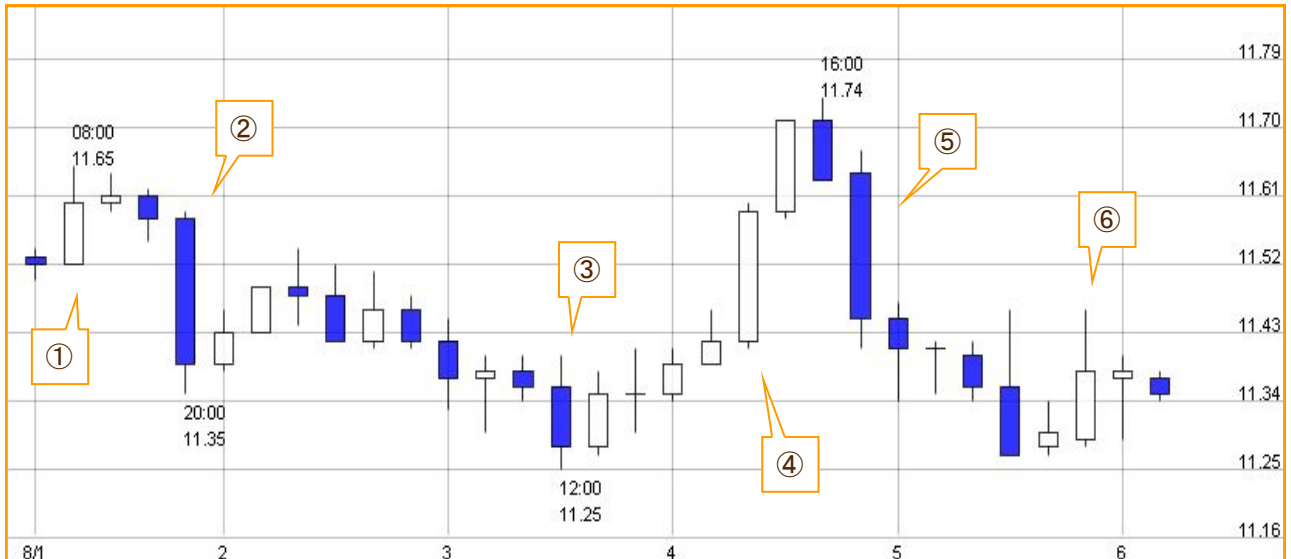
先週のNZドル/円相場は65.20～68.85円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約2.1%の下落(NZドル安・円高)となった。

先週、米国の景気減速懸念を背景にNYダウ平均が下落した事や、欧州債務問題の拡大を背景に欧州株が下落した事も加わると、世界的な景気減速懸念の強まりを受けてNZドル/円は売り優勢の展開が続いた。世界景気の先行きに暗雲が立ち込めている状況では、リスク回避の動きが先行しやすく、今週も主要国で株安が進む場面ではNZドル/円は軟調な展開が予想される。とはいえ、現在のNZドル/円下落の主因は欧米株の下落によるところが大きく、NZ国内のファンダメンタルズを反映しているとは言い難い。このため、株価が反発する場面ではNZドル/円には上昇圧力がかかりやすいと見る。(川畑)

(予想レンジ: 64.00～66.40円)

ZAR/JPY

ランド/円 8/1~5の主な推移



<p>8/1 Monday</p>	<p>米オバマ大統領が声明を発表し、民主・共和両党の指導部が政府の債務上限引き上げと財政赤字削減策で合意に達した事を明らかにした。これを受けて時間外のNYダウ平均先物や日経平均株価が堅調に推移すると、ランド/円は11.65円をつけた(①)。しかし、米7月ISM製造業景況指数が予想を下回ると、米国の景気減速懸念からNYダウ平均が100ドル超下落。これを受けてランド/円は11.35円まで下げた(②)。ただ、日経新聞電子版が「政府が円高是正へ介入準備」等と伝えた事で円売りが優勢となり、ランド/円は反発した。</p>
<p>8/3 Wednesday</p>	<p>日経平均株価の下落に加え、独と仏との国債利回り格差の拡大を背景に欧州株の下落も重なり、ランド/円は3月18日以来の安値水準となる11.25円まで下げた(③)。</p>
<p>8/4 Thursday</p>	<p>政府・日銀による円売り介入を受けてランド/円は急騰。また、円売り介入は欧州市場でも続くと、その後11.74円まで上昇した(④)。しかし、欧州債務不安を背景に欧州株が下落した事が引き金となり、NYダウ平均が引けにかけて500ドル以上の下げを記録すると、リスク回避の動きが強まりランド/円はその後11.34円まで下げた(⑤)。</p>
<p>8/5 Friday</p>	<p>米7月雇用統計は失業率が9.1%(予想:9.2%)、非農業部門雇用者数は11.7万人増(予想:8.5人増)となり、強い結果を受けて時間外のNYダウ平均先物が急騰すると、連れてランド/円は一時11.46円まで上昇した。しかしその後、米国の格下げ懸念を背景にNYダウ平均が一時240ドル超の下げを記録すると、ランド/円は11.29円まで下げる場面が見られた(⑥)。</p>

ZAR/JPY

上昇要因(ランド高・円安)

- ・日本と南アの金利差
- ・世界経済の回復期待の強まり、懸念の緩和
→リスクを取ることに積極性が増す
- 主要国株価や資源価格の上昇
- ・新興国への投資の機運の高まり
- ・南アの利上げ観測の浮上
- ・日本の円売り介入

下落要因(ランド安・円高)

- ・世界経済の回復期待の後退、先行き懸念
→リスクを取ることに消極的になる
- 主要国株価や資源価格の下落
- ・南ア経済の低迷
- ・南アの利下げ懸念の浮上

今週の見通し

先週のランド/円相場は11.35～11.74円のレンジで推移し、週間の終値ベースでは約1.2%の下落(ランド安・円高)となった。

先週、米国の景気減速懸念を背景にNYダウ平均が下落した事や、欧州債務問題の拡大を背景に欧州株が下落した事も加わると、世界的な景気減速懸念の強まりを受けてランド/円は売り優勢の展開が続いた。世界景気の先行きに暗雲が立ち込めている状況では、リスク回避の動きが先行しやすく、今週も主要国で株安が進む場面ではランド/円は売られやすいと見る。ただし、現在のランド/円の下落は南アフリカのファンダメンタルズ面の悪化というより、世界的な株安によるリスク回避の側面が強く、株価が下げ止まる場面があれば、ランド/円の下落圧力の緩和も予想される。(川畑)

(予想レンジ:10.90～11.50円)

経済指標カレンダー (8/8~10)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
8/8	08:50		(日) 6月貿易収支	-7727億円	+1131億円
(月)	14:00		(日) 7月景気ウォッチャー調査 [現状判断DI]	49.6	50.0
			(日) 7月景気ウォッチャー調査 [先行き判断DI]	49.0	—
	14:00		(日) 8月金融経済月報・基本的見解	—	—
8/9			南ア休場(ウーマンズ・デー)		
(火)	08:50		(日) 7月マネースtockM2+CD [前年比]	+2.9%	+2.9%
	10:30	◎	(中) 7月消費者物価指数[前年比]	+6.4%	+6.4%
	10:30	○	(中) 7月生産者物価指数[前年比]	+7.1%	+7.5%
	11:00	○	(中) 7月鉱工業生産[前年比]	+15.1%	+14.7%
	11:00	○	(中) 7月小売売上高[前年比]	+17.7%	+17.7%
	15:00		(独) 6月経常収支	+69億EUR	—
	15:00		(独) 6月貿易収支	+148億EUR	+140億EUR
	17:30	○	(英) 6月鉱工業生産 [前月比]	+0.9%	+0.4%
	17:30		(英) 6月製造業生産高 [前月比]	+1.8%	+0.2%
	17:30		(英) 6月商品貿易収支	-84.78億GBP	-8100億GBP
	21:15		(加) 7月住宅着工件数	20.08万件	19.32万件
	21:30		(米) 第2四半期単位労働費用 [前期比]	+0.7%	+2.3%
	21:30		(米) 第2四半期非農業部門労働生産性 [前期比]	+1.8%	-0.8%
	26:00	○	(米) 3年債入札(320億ドル)	—	—
	27:15	◎	(米) FOMC政策金利発表	0.00-0.25%	—
8/10	08:50		(日) 日銀金融政策決定会合議事要旨 (7月11・12日分)	—	—
(水)	11:00	○	(中) 7月貿易収支	+222.7億USD	+270億USD
	15:00		(独) 7月消費者物価指数・確報 [前月比]	+0.4%	+0.4%
			(独) 7月消費者物価指数・確報 [前年比]	+2.4%	+2.4%
	18:30	◎	(英) BOE四半期インフレレポート	—	—
	23:00		(米) 6月卸売在庫 [前月比]	+1.8%	+1.0%
	26:00	○	(米) 10年債入札(240億ドル)	—	—
	27:00	○	(米) 7月月次財政収支	-431億USD	-1400億USD

巻末の特記事項を必ずお読みください。

経済指標カレンダー (8/11~12)

日付	時刻	注目度	経済指標、イベント等	前回	予想
8/11 (木)	08:50		(日) 6月機械受注 [前月比]	+3.0%	+1.8%
			(日) 6月機械受注 [前年比]	+10.5%	+11.3%
	10:30	◎	(豪) 7月新規雇用者数	+2.34万人	—
	10:30	◎	(豪) 7月失業率	4.9%	—
	17:00		(ユーロ圏) ECB月例報告	—	—
	21:30	○	(米) 6月貿易収支	-502億USD	-475億USD
	21:30	◎	(米) 8/5までの週の新規失業保険申請件数	40.0万件	—
	21:30		(加) 6月新築住宅価格指数 [前月比]	+0.4%	—
	21:30		(加) 6月国際商品貿易	-8億CAD	-10億CAD
	26:00	○	(米) 30年債入札(160億ドル)	—	—
8/12 (金)	13:30		(日) 6月鉱工業生産・確報 [前月比]	+3.9%	—
			(日) 6月鉱工業生産・確報 [前年比]	-1.6%	—
	18:00	○	(ユーロ圏) 6月鉱工業生産・季調済 [前月比]	+0.3%	—
	21:30	○	(米) 7月小売売上高 [前月比]	+0.1%	+0.4%
	21:30	○	(米) 7月小売売上高 [前月比: 除自動車]	±0.0%	+0.2%
	22:55	◎	(米) 8月ミシガン大消費者信頼感指数・速報値	63.7	63.7
	23:00		(米) 6月企業在庫 [前月比]	+1.0%	+0.6%

※発表日時は予告なく変更される場合があります。

※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。